二〇二一年五月二九日

案内はおはぐろ蜻蛉隠れ沼　　むべ
水満ちて蛙鳴き交ふ千枚田　　かかし
おしやれより大き鍔選る夏帽子　　なつき
子に摘ます爺丹精の露地苺　　うつぎ
苔むせる合掌屋根や柿若葉　　凡士
明易し波音やまぬ旅枕　　よし子
山路いま高鳴る梅雨の瀬音かな　　こすもす
大麦の藁がストロー園児たち　　かかし
唐破風の湯屋に藍染め夏暖簾　　凡士
巫女衣装脱いで祭の子となれり　　なつき
苔むせる墓石に松の落葉嵩　　愛正

一斉の茶摘みに村はがらんどう　　うつぎ
鳥居越し観音崎の大夕焼　　素秀
若楓透けて清しき朝日さす　　わかば
終着駅まるごと囲む麦の秋　　宏虎
つぴつぴと雲間より洩る四十雀　　むべ
学舎は煉瓦造りや楠若葉　　凡士
梅雨晴間なれば槌音良く響く　　よう子
香水のほのかや吾娘の親離れ　　なつき
大淀の広しと揚がる雲雀かな　　はく子

毎週句会秀句・みのる選・二〇二一年五月三〇日